

ツキノワグマによる人身事故防止総合対策事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	安全環境部	課名	自然環境課	課長名	大川 瑛子	
事業主体		県・市町等			事務区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業区分	■ 実行予算 ■ 補助金 □ その他	事業開始年度	R3 年度 経過年数 1 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	- 年度
事業実施方法		補助金										
補助率		1/3										
福井県長期ビジョンにおける位置付け		分野 [4 安心を高める(地域力)] 政策 [15 ふるさとの暮らしと風景の維持]				関連する県の計画等		[鳥獣保護管理事業計画 福井県第一種特定鳥獣保護計画(ツキノワグマ)]				
<p>[解決すべき問題・課題]</p> <p>山際集落の過疎化や高齢化、生活様式の変化に伴う里山での人間活動の低下により、人里に近い山林が藪化し、ツキノワグマが生息しやすい環境が形成されている。そのような中、山の実りが不作の年には、ツキノワグマが餌を求めて人里に出没しやすい状況となっている。</p>												
<p>[事業目的]</p> <p>近年過疎化や高齢化により里山が荒廃し、里山に定着するツキノワグマが増加することにより、人の生活とクマの生息地が近くなりつつある。クマの適切な管理と人身被害防止を図るため、情報提供、狩猟者育成、誘引物除去等の総合的な対策を行う。</p>												
<p>[事業内容]</p> <p>○ツキノワグマ対策指導者の派遣 市町職員や地域住民に対し、ツキノワグマの人身事故防止対策（柿もぎや緩衝帯整備、捕獲）に必要な情報の助言等を行う者を派遣する。 ・集落内へのツキノワグマの出没時に、現地に赴き、ツキノワグマの出没要因やその除去等の対策について助言する。 ・ツキノワグマによる人身事故が発生した時に、現地に赴きその発生要因を明らかにするとともに、再発防止に向けた助言を行う。 ・平素から、誘引物となる樹木の伐採など、クマの出没に強い地域づくりへの助言を行う。</p> <p>○誘引物除去対策補助金 人の生活圏にある管理されずに放置されたままの果樹（柿や栗）等は、ツキノワグマを引き寄せ人身事故の原因となるため、ツキノワグマを誘引する可能性のある樹木の伐採に係る経費を補助する。（事業費の1/3以内、上限30千円）</p>												
[受益者] 県民						[想定される受益者数]						
前事業の有無・実績	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (実績)					関連事業の有無・役割分担	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (役割分担)					
市町との連携状況	毎年、ツキノワグマの行動が活発になり始める春と、冬眠前の行動に注意が必要になる秋に、市町職員、県関係機関、県猟友会等の関係者と「ツキノワグマ出没対策連絡会」を開催し、ツキノワグマの出没傾向等の情報共有と連携強化を図っている。					他県の状況	○富山県 9,000千円 生息調査 2,000千円 堅果類豊凶調査 2,000千円 市町村への補助金(パトロール、銃購入) 5,000千円 ○石川県 5,000千円 県民向けのフォーラム開催 400千円 市町・捕獲隊向け対策マニュアル作成 4,400千円 事務費 200千円					

ツキノワグマによる人身事故防止総合対策事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	安全環境部	課名	自然環境課	課長名	大川 瑛子			
事業主体	県・市町等				事務 区分	■ 自治事務		事業 区分	■ 実行予算		事業 開始 年度	R3 年度 経過年数 1 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	- 年度
事業実施方法	補助金					□ 法定受託事務			■ 補助金					
補助率	1/3					□ その他								
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	国庫、その他財源の名称等								
予算額	3,268			(繰入) 3,268		自然保護基金								
[予算額の推移等]												(単位：千円)		
区 分		平成29年度	30年度	令和元年度	2年度	3年度	令和3年度予算額の増減理由							
当初予算額の推移						3,268								
2月現計予算額の推移														
決算額の推移														
前年度までの 主な増減理由		-												
[成果指標等の推移]														
区 分		平成29年度	30年度	令和元年度	2年度	3年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠					
成果指標	誘因樹木の伐採 (目標) 実績					(100)	(100)	(100)	補助対象件数100件					
活動指標	ツキノワグマ対策指導者の派遣 (目標) 実績					(10)	(10)	(10)	指導者の派遣回数10回					
[事業の評価]														
前年度の実績				実績を踏まえた令和3年度の変更点				事業評価						
								■ 拡充	□ 縮減	□ 終期の見直し	見直し額			
								□ 継続	□ 休止	□ 完了				
								□ 整理統合	□ 廃止	□ その他				

コウノトリ飼育事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	安全環境部	課名	自然環境課	課長名	大川 瑛子	
事業主体	県				事務 区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業 区分	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業 開始 年度	H22 年度 経過年数 12 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R3 年度
事業実施方法	直営											
補助率	—											
福井県長期ビジョン における位置付け	分野 [4 安心を高める(地域力)] 政策 [15 ふるさとの暮らしと風景の維持]				関連する県の計画等	〔 福井県環境基本計画 〕						
[解決すべき問題・課題]												
飼育している「ふっくん・さっちゃん」の実の子は、R4以降にしか放鳥できない。 飼育ケージのある白山地区にはすでに野外に2ペアが縄張りを形成しており、飼育場所での放鳥は困難。												
[事業目的]												
自然再生のシンボルであるコウノトリを越前市白山地区で引き続き飼育する。												
[事業内容]												
<p>(1) コウノトリ飼育 兵庫県立コウノトリの郷公園から借受けたつがいのコウノトリについて、越前市白山地区において飼育を継続する。 外部委託による専任飼育員による継続的な飼育を行い、効果的に飼育を行う。</p> <p>(2) 放鳥個体の追跡の実施 平成27年から平成30年に放鳥したコウノトリに装着したGPS発信機を用いて、飛来位置を追跡する。</p> <p>(3) コウノトリ定着推進会議の開催 コウノトリ定着推進会議を開催し、コウノトリの野外定着に向けた対策検討や放鳥後の生態調査を報告・検証する。</p>												
[受益者] 県民						[想定される受益者数]						
前事業の有無・実績	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (実績)					関連事業の有無・ 役割分担	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (役割分担)					
市町との連携状況	野外コウノトリが定着・繁殖できるよう越前市においては、ビオトープ整備など餌場環境の整備と地域住民への普及啓発に努め、県が主体で行っている飼育・繁殖事業については、越前市の職員を配置することにより、市と協同して事業を推進している。					他県の状況						

コウノトリ飼育事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	安全環境部	課名	自然環境課	課長名	大川 瑛子	
事業主体	県				事務区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業区分	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業開始年度	H22 年度 経過年数 12 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R3 年度
事業実施方法	直営											
補助率	—											
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	国庫、その他財源の名称等						
予算額	12,109			(繰入) 12,109		自然保護基金						
[予算額の推移等] (単位：千円)												
区分		平成29年度	30年度	令和元年度	2年度	3年度	令和3年度予算額の増減理由					
当初予算額の推移		22,892	24,309	13,825	12,307	12,109						
2月現計予算額の推移		18,383	16,284	11,935	11,634							
決算額の推移		15,373	13,833	10,397								
前年度までの 主な増減理由	H29～H30 水鳥が飛来する地域を対象として、ビオトープを整備											
[成果指標等の推移]												
区分		平成29年度	30年度	令和元年度	2年度	3年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠			
成果指標	県内で生まれたヒナの野 外放出数 (目標)	(3)	(3)	(3)	(3)	(3)			県内で生まれたヒナが野外へ飛び立つ数 (H27～H30は飼育ペアから生 まれたヒナを野外放鳥、R01からは野外ペアから生まれたヒナが巣た ち)			
	実績	2	3	4	4							
活動指標	ビオトープ等設置個所数 (目標)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)			巣塔またはビオトープの設置数			
	実績	3	3	2	2							
[事業の評価]												
前年度の実績				実績を踏まえた令和3年度の変更点				事業評価				
(R2) ・越前市安養寺町：野外コウノトリペア (J0138×J0132) が繁殖し、 4羽巣立ち				・野外コウノトリの県内での定着を促進させる				<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額	
								<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了		
								<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他		

三方五湖・北潟湖自然再生事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	安全環境部	課名	自然環境課	課長名	大川 瑛子	
事業主体		三方五湖自然再生協議会、北潟湖の自然再生に関する協議会			事務 区 分	■ 自治事務	事業 区 分	□ 実行予算 □ 補助金 ■ その他	事業 開始 年度	R1 年度 経過年数 3 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R3 年度
事業実施方法	負担金											
補助率	1/4											
福井県長期ビジョン における位置付け		分野 [4 安心を高める(地域力)] 政策 [15 ふるさとの暮らしと風景の維持]			関連する県の計画等		[福井県環境基本計画]					
[解決すべき問題・課題]												
協議会への参加者の高齢化と固定化、協議会事業における産業(なりわい)に結び付いた自然再生の推進												
[事業目的] 三方五湖では「三方五湖自然再生協議会(平成23年5月設立)」、北潟湖では「北潟湖自然再生協議会(平成30年11月設立)」において、地元市町と地域住民、農漁業者、研究者および県、市町が協働して地域に即した自然再生を行い生物多様性の保全を行うとともに、保全活動の成果や地域の自然の魅力を全国にアピールしていく。												
[事業内容] ○三方五湖自然再生事業実施計画に基づき三方五湖の自然の保全、再生、活用を行う ①負担金対象者 三方五湖自然再生協議会 ②負担金額 2,000千円 (事業総額 8,000千円(国1/2、県1/4、若狭町1/8、美浜町1/8)) ③活動内容 三方五湖自然再生協議会全体会の開催 自然護岸再生、外来種対策、濁水防止のための普及啓発、水田養魚による地元産のフナ・コイの増殖、子どもラムサール(環境教育)の推進等 ○あわら市、農漁業者、地域住民、大学研究者が共働して北潟湖の自然の保全、再生、活用を行う ①負担金対象者 北潟湖自然再生協議会 ②負担金額 1,000千円 (事業総額 4,000千円(国1/2、県1/4、あわら市1/4)) ③活動内容 北潟湖自然再生協議会の開催、北潟湖自然再生実施計画の作成 水質改善、外来種駆除と希少な水棲昆虫の保全、小学生を対象とした環境学習の推進等												
[受益者] 三方五湖周辺の住民、北潟湖周辺の住民						[想定される受益者数]						
前事業の有無・実績		<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 事業名 三方五湖・北潟湖生物生息環境再生事業 (実績) <small>[三方五湖] ・法定協議会「自然再生協議会」の設立(H23.5) ・自然再生フォーラムや観察会等の開催、カヤ田の保全、ヒシ刈り等の実施(H25~H27) ・ヒシの管理指針の作成(H27) ・水田養魚のマニュアルの作成(H27) [北潟湖] ・北潟湖の自然再生に関する協議会の設立(H25) ・水田魚道の設置、魚類の育成効果を検証、地域の子供対象の魚観察会(H25~H27)、フォーラム・エクスカージョンの開催(H27)</small>				関連事業の有無・役割分担		<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (役割分担)				
市町との連携状況		三方五湖自然再生協議会では、若狭町と美浜町が県とともに事務局を担い、負担金を拠出している。 北潟湖自然再生協議会では、あわら市が事務局を担い、県とともに負担金を拠出している。				他県の状況						

三方五湖・北潟湖自然再生事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	安全環境部	課名	自然環境課	課長名	大川 瑛子	
事業主体	三方五湖自然再生協議会、北潟湖の自然再生に関する協議会				事務区分	■ 自治事務		事業区分	□ 実行予算	事業開始年度	R1 年度	事業終了予定年度 (見直し年度)
事業実施方法	負担金					□ 法定受託事務			□ 補助金		経過年数	
補助率	1/4								■ その他		3 年	
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	国庫、その他財源の名称等						
予算額	3,000			(繰入) 3,000		自然保護基金						
[予算額の推移等] (単位：千円)												
区分		平成29年度	30年度	令和元年度	2年度	3年度	令和3年度予算額の増減理由					
当初予算額の推移		3,000	4,000	3,000	3,000	3,000						
2月現計予算額の推移		3,106	4,000	3,000	3,000							
決算額の推移		3,106	4,000	3,000								
前年度までの主な増減理由		・平成30年度は、北潟湖自然再生協議会（自然再生推進法に基づく協議会）の設立と全体構想の作成のための経費を計上										
[成果指標等の推移]												
区分		平成29年度	30年度	令和元年度	2年度	3年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠			
成果指標	協議会の開催	(3)	(3)	(3)	(3)	(3)			三方五湖自然再生協議会全体会の開催（1回/年） 北潟湖自然再生協議会全体会（2回/年）			
		実績 3	4	2	3							
活動指標	自然再生活動数（部会開催数）	(27)	(27)	(27)	(27)	(27)			三方五湖 18回（各6部会×3回/年）開催 北潟湖 9回（各3部会×3回/年）開催			
		実績 26	28	38	20							
[事業の評価]												
前年度の実績				実績を踏まえた令和3年度の変更点				事業評価				
<ul style="list-style-type: none"> ・三方五湖自然再生協議会、北潟湖の自然再生に関する協議会の開催 ・三方五湖自然再生協議会、北潟湖の自然再生に関する部会の開催 								□ 拡充	□ 縮減	□ 終期の見直し	見直し額	
								■ 継続	□ 休止	□ 完了		
								□ 整理統合	□ 廃止	□ その他		

三方湖のヒシ対策事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	安全環境部	課名	自然環境課	課長名	大川 瑛子	
事業主体	県				事務区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業区分	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業開始年度	H30 年度 経過年数 4 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R4 年度
事業実施方法	直営											
補助率	—											
福井県長期ビジョン における位置付け	分野 [4 安心を高める(地域力) 政策 [15 ふるさとの暮らしと風景の維持]]				関連する県の計画等	[福井県環境基本計画、里山里海湖研究所中期計画]						
<p>[解決すべき問題・課題]</p> <p>三方五湖の最上流部に位置する三方湖において、近年、湖面をほぼ埋め尽くすほどにヒシの分布が拡大している。三方湖のヒシ発生に伴い、漁業のための航路障害や湖辺に堆積するヒシの枯死体から発せられる悪臭などの社会的問題、ヒシの群落内における水中の貧酸素化による生態系の悪影響、湖景観への悪化を解消することが必要である。</p>												
<p>[事業目的]</p> <p>三方湖のヒシの低密度管理につなげるため、強度のヒシ刈取りを実施する。</p>												
<p>[事業内容]</p> <p>①ワイヤー刈取り ・実施時期：5～7月 ・ヒシの葉が湖面を覆う前に発芽区域全体を刈取る。 ・漁船に装着したワイヤーを引きながら、水深1～2mで葉が水面に出てくる前の若いヒシの茎を刈取る。</p> <p>②ヒシの回収 ・刈取りしたヒシのうち、漂流し漁業等に支障をもたらすヒシは回収し、陸揚げして処分する。</p>												
[受益者] 県民						[想定される受益者数]						
前事業の有無・実績	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (実績)					事業名		<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有		事業名		三方五湖・北潟湖自然再生事業
市町との連携状況	—					他県の状況		(役割分担) ヒシの適正管理を行う手法開発として、平成25年から平成27年において、ヒシ刈取り専用船によるヒシ刈り実施試験の成果として「ヒシ対策ガイドライン」を作成。平成28年度からは、ワイヤー刈りによる低コストで効果的な管理手法の実証研究を実施。 ○諏訪湖に係る第6期水質保全計画(平成24年度から平成28年度) 「水草刈取船による諏訪湖のヒシ除去工事の実施(H25～長野県諏訪建設事務所)」 ○印旛沼に係る湖沼水質保全計画(第7期 平成28年～32年) 「印旛沼におけるオニビシの刈取り実施」				

三方湖のヒシ対策事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	安全環境部	課名	自然環境課	課長名	大川 瑛子	
事業主体	県				事務区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業区分	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業開始年度	H30 年度 経過年数 4 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R4 年度
事業実施方法	直営											
補助率	—											
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	国庫、その他財源の名称等						
予算額	10,964	8,223			2,741	電源交付金						
[予算額の推移等] (単位：千円)												
区 分	平成29年度	30年度	令和元年度	2年度	3年度	令和3年度予算額の増減理由						
当初予算額の推移		18,052	14,830	12,840	10,964							
2月現計予算額の推移		18,052	14,830	10,766								
決算額の推移		17,997	14,789									
前年度までの 主な増減理由	・ (H30-R1) 機械による刈取りを行わないことに伴い予算額が縮小											
[成果指標等の推移]												
区 分	平成29年度	30年度	令和元年度	2年度	3年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠				
成果指標	ヒシ繁茂面積 (ha)	(目標) (34)	(34)	(34)	(34)			三方湖ヒシ対策ガイドライン（三方五湖自然再生協議会外来生物等対策部会）のゾーニング計画に沿って平成18年～28年までのヒシの最小繁茂面積（34ha）程度を保全する。				
		実績	153	0.4								
活動指標	ヒシ刈取り面積 (ha)	(目標) (240)	(240)	(240)	(240)			平成18年～28年までの最大繁茂面積（271ha）と最小繁茂面積（34ha）の差となる240haのヒシを最大の目安として毎年刈り取る。				
		実績	200	129	110							
[事業の評価]												
前年度の実績 (R2)				実績を踏まえた令和3年度の変更点				事業評価				
R2 刈取面積110ha								<input type="checkbox"/> 拡充	<input checked="" type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額	
								<input type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了	△ 1,876	
								<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他		

S A T O Y A M A イ ニ シ ア テ ィ ブ 推 進 事 業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	安全環境部	課名	自然環境課	課長名	大川 瑛子	
事業主体		県			事 務 区 分	■ 自 治 事 務 □ 法 定 受 託 事 務	事 業 区 分	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業 開始 年度	H27 年度 経過年数 7 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R3 年度
事業実施方法		直営										
補助率		—										
福井県長期ビジョン における位置付け		分野 [4 安心を高める(地域力) 政策 [15 ふるさとの暮らしと風景の維持]]				関連する県の計画等		[福井県環境基本計画]				
[解決すべき問題・課題]												
S A T O Y A M A イ ニ シ ア テ ィ ブ 推 進 ネットワークでの民間企業間の交流の伸び悩み。												
[事業目的]												
福井・石川両県知事の共同代表のもと平成25年9月に発足した「SATOYAMAイニシアティブ推進ネットワーク」を「SATOYAMAイニシアティブ」の理念を国内で共有するプラットフォームとして位置付け、SATOYAMAにおける生物多様性の保全や利活用を「国民的運動」へと展開する。												
[事業内容]												
<p>企業、NGOなどの民間団体、大学などの研究機関、地方自治体等の行政機関といった多様な主体が取り組む自然再生活動等について、①～②を通じて、参加団体相互で情報共有、意見交換を行い、連携・協働して里山里海湖の生物多様性の保全や利活用を全国で広げる。</p> <p>①国内におけるSATOYAMAイニシアティブの普及啓発 ・都市圏や地方における参加団体の活動の情報発信</p> <p>②里山等地域の保全や利活用に関する成果の情報発信 ・参加団体の情報発信や情報共有の場としてシンポジウムや現地視察を実施</p>												
[受益者] SATOYAMAイニシアティブ推進ネットワーク会員						[想定される受益者数]						
前事業の有無・実績	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (実績)					関連事業の有無・役割分担	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (役割分担)					
市町との連携状況						他県の状況	石川県と福井県が共同でSATOYAMAイニシアティブ推進ネットワークを運営。					

SATOYAMAイニシアティブ推進事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	安全環境部	課名	自然環境課	課長名	大川 瑛子			
事業主体	県				事務 区分	■ 自治事務		事業 区分	■ 実行予算		事業 開始 年度	H27 年度 経過年数 7 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R3 年度
事業実施方法	直営					□ 法定受託事務			□ 補助金					
補助率	—					□ その他								
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	国庫、その他財源の名称等								
予算額	365			(繰入) 365		自然保護基金								
[予算額の推移等]												(単位：千円)		
区 分		平成29年度	30年度	令和元年度	2年度	3年度	令和3年度予算額の増減理由							
当初予算額の推移		691	707	366	365	365								
2月現計予算額の推移		691	707	366	365									
決算額の推移		591	262	220										
前年度までの 主な増減理由		・令和元年度は、勉強会の開催を参加団体の持ち回りで実施することとなったことに伴い予算が縮小												
[成果指標等の推移]														
区 分		平成29年度	30年度	令和元年度	2年度	3年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠					
成果指標	SATOYAMAイニシアティブ推進ネットワーク参加団体数 (目標)	(109)	(111)	(117)	(120)	(120)	(126)	(158)	新規登録団体 2団体/年					
	実績	108	115	118	117									
活動指標	セミナーの開催 (目標)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	参加団体の勉強会を開催					
	実績	2	2	1	0									
[事業の評価]														
前年度の実績				実績を踏まえた令和3年度の変更点				事業評価						
○幹事会の開催 ・第13回 令和2年9月(オンライン) ○定期総会 令和2年11月(オンライン)				○幹事会、総会等のオンライン出席の検討 ○民間企業が主体となった組織との交流				<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額			
								<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了				
								<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他				

「残そう・伝えよう！」生きもの保全事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	安全環境部	課名	自然環境課	課長名	大川 瑛子							
事業主体	県				事務 区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業 区分	□ 実行予算 ■ 補助金 □ その他	事業 開始 年度	H27 年度 経過年数 7 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R3 年度						
事業実施方法	補助金																	
補助率	10/10																	
福井県長期ビジョン における位置付け	分野 [4 安心を高める(地域力)] 政策 [15 ふるさとの暮らしと風景の維持]					関連する県の計画等		[福井県環境基本計画]										
[解決すべき問題・課題]																		
自然再生団体の活動がなくなることで、絶滅の恐れが高まる種が増え、子どもたちが、地域の生きものや自然環境について学ぶ機会が減る。																		
[事業目的]																		
地域と小学校が共働し、地域の身近な自然環境の保全・再生を行うため、子どもたちが地域の自然再生団体とともに継続的に身近な生きものの調査・保全活動を行う。																		
[事業内容]																		
<p>(1) 調査対象および内容 地域の宝となる希少な生物(県絶滅危惧種)を含む生き物の調査と保全について、地元の自然再生団体の協力を得なければ継続的に実施することが困難な活動を対象 (例) シャープゲンゴロウモドキ(昆虫)、ミチノクフクジュソウ(植物)、タマシギ(野鳥)など</p> <p>(2) 支援内容 ○補助対象 自然再生団体 10団体 ○補助内容 ・身近な生き物調査と保全活動および小学校での観察会の開催経費 ・生きもの観察調査資機材への助成 ・生き物の生息環境整備に必要な資機材</p>																		
[受益者] 県内小学校児童						[想定される受益者数] 年間800人												
前事業の有無・実績	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 事業名 身近な生きもの生息環境調査事業 (実績) 県内7ブロックごとに、身近な生きもの調査をするモデル校を指定し、トンボ、メダカ、積雪量の共通調査と学校独自の学校別調査を実施。県内8小学校(302人)が参加。					関連事業の有無・役割分担	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 事業名 自然再生ふくい行動推進事業 (役割分担) 地域、団体、学校、企業等が行う里地里山の保全活動、自然環境保全活動、生き物調査などの技術的な指導や助言を行うため、専門家を派遣し、活動をサポートしている。											
市町との連携状況	・市町教育委員会との連絡					他県の状況												

「残そう・伝えよう！」生きもの保全事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	安全環境部	課名	自然環境課	課長名	大川 瑛子					
事業主体	県				事務 区分	■ 自治事務		事業 区分	□ 実行予算		事業 開始 年度	H27 年度 経過年数 7 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R3 年度		
事業実施方法	補助金					□ 法定受託事務			■ 補助金						□ その他	
補助率	10/10															
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	国庫、その他財源の名称等										
予算額	2,000			(繰入) 2,000		環境保全基金										
[予算額の推移等]												(単位：千円)				
区 分		平成29年度	30年度	令和元年度	2年度	3年度	令和3年度予算額の増減理由									
当初予算額の推移		4,497	2,000	2,000	2,000	2,000										
2月現計予算額の推移		3,331	2,000	2,000	2,000											
決算額の推移		3,188	1,589	1,989												
前年度までの 主な増減理由		29～：調査票作成に係る委託料の減 30：講師の派遣費用を別事業と統合し、予算を縮減														
[成果指標等の推移]																
区 分		平成29年度	30年度	令和元年度	2年度	3年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠							
成果指標	参加児童数	(目標)	(350)	(350)	(350)	(350)	(350)	(350)	35人/1クラス×10団体							
		実績	595	780	240											
活動指標	支援団体数	(目標)	(10)	(10)	(10)	(10)	(10)	(10)	自然再生団体等10団体							
		実績	10	11	5											
[事業の評価]																
前年度の実績				実績を踏まえた令和3年度の変更点				事業評価								
<ul style="list-style-type: none"> ・ 交付団体 5団体 ・ 参加学校 6校 ・ 参加児童 240人 ・ 保全対象希少種 16種 								□ 拡充	□ 縮減	□ 終期の見直し	見直し額					
								■ 継続	□ 休止	□ 完了						
								□ 整理統合	□ 廃止	□ その他						

実学研究の推進

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	安全環境部	課名	自然環境課	課長名	大川 瑛子	
事業主体		福井県			事務 区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業 区分	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業 開始 年度	R1 年度 経過年数 3 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R5 年度
事業実施方法		直営										
補助率		—										
福井県長期ビジョン における位置付け		分野 [4 安心を高める(地域力) 政策 [15 ふるさとの暮らしと風景の維持]]			関連する県の計画等		[福井県環境基本計画、里山里海湖研究所中期計画]					
[解決すべき問題・課題]												
<p>里山里海湖の資源を守るためには、専門的な学問や科学の支えのもとで、県民が自然体験や自然再生活動を行うことが必要である。</p>												
[事業目的]												
<p>年縞や豊かな自然環境など、本県が誇るべき里山里海湖による恵みの価値を再認識し、生物多様性の確保と福井の豊かな暮らしの承継につなげるため、里山里海湖の恵みを人々の暮らしに結びつける工夫を研究する。</p>												
[事業内容]												
<p>4名の研究者が、以下の分野において、里山里海湖の恵みを人々の暮らしに結びつける工夫を研究する。</p> <p>【環境考古】 山崎 彬輝 . . . 年縞を基に、自然、歴史をひも解き、自然と人の暮らしとの関わりを明らかにする研究を推進</p> <p>【保全生態】 石井 潤 . . . 里山、里海湖の生物多様性の保全・再生および生態系サービスの分析評価に関する研究</p> <p>【里地里山文化】 樋口 潤一 . . . 里に伝わる伝統(農法、漁法等)、文化、習俗等の資料を収集、活用して、 県民の生活や里山里海湖の資源を生かした経済活動につなげる研究</p> <p>【森里川海連環】 宮本 康 . . . 県内を中心に、森から海にかけての生態系のつながりと人の暮らしの関わりに関する研究</p>												
[受益者]						[想定される受益者数]						
前事業の有無・実績	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (実績)					関連事業の有無・役割分担	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (役割分担)					
市町との連携状況	研究の実施において、市町関係施設等との連携を図っている。					他県の状況	県レベルでの里山里海湖に関する研究を行う組織は他県にはない。					

実学研究の推進

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	安全環境部	課名	自然環境課	課長名	大川 瑛子	
事業主体	福井県				事務 区分	■ 自治事務		■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業 開始 年度	R1 年度 経過年数 3 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R5 年度
事業実施方法	直営					□ 法定受託事務						
補助率	—											
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	国庫、その他財源の名称等						
予算額	8,000	390		(繰入) 7,610		科学研究費補助金、自然保護基金						
[予算額の推移等] (単位：千円)												
区 分		平成29年度	30年度	令和元年度	2年度	3年度	令和3年度予算額の増減理由					
当初予算額の推移		9,466	7,808	8,095	8,000	8,000						
2月現計予算額の推移		9,466	4,445	7,065	6,603							
決算額の推移		7,669	4,029	6,275								
前年度までの 主な増減理由		・ (H30) 研究員2名欠員により、2補で減額										
[成果指標等の推移]												
区 分		平成29年度	30年度	令和元年度	2年度	3年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠			
成果指標	(目標) 実績								5年間の研究期間の途中年度毎に研究成果を数値化することは困難			
活動指標	研究テーマ数 (目標) 実績	(4) 4	(4) 2	(4) 4	(4) 4	(4)	(4)	(4)	各研究員が研究項目ごとに研究を行う			
[事業の評価]												
前年度の実績 (R2)				実績を踏まえた令和3年度の変更点				事業評価				
これまでの研究成果について地域における協議会等への参加などを 通じて、研究成果の地域への還元に取り組んでいる。 研究員が開発した効率的なヒシ刈り手法により三方湖でヒシ刈りを 実施。研究員が関与した護岸再生の手引書を踏まえ、県および美浜、 若狭町が護岸工事を施工。								□ 拡充	□ 縮減	□ 終期の見直し	見直し額	
								■ 継続	□ 休止	□ 完了		
								□ 整理統合	□ 廃止	□ その他		

福井ふるさと学びの森 がんばる里山里海湖応援プロジェクト

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	安全環境部	課名	自然環境課	課長名	大川 瑛子	
事業主体	県				事務 区 分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業 区 分	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業 開始 年度	R1 年度 経過年数 3 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R4 年度
事業実施方法	直営											
補助率	—											
福井県長期ビジョン における位置付け	分野 [4 安心を高める(地域力) 政策 [15 ふるさとの暮らしと風景の維持]]				関連する県の計画等	[福井県環境基本計画、里山里海湖研究所中期計画]						
[解決すべき問題・課題]												
里山や里海湖を使った気軽な自然体験の中で環境教育を推進するため、民間団体等が主体となって質の高い体験サービスを提供できるようにする必要がある。												
[事業目的]												
福井ふるさと学びの森・海湖における体験活動をとおして、人の暮らしと里山・里海湖との関わりや森と海湖のつながりを学ぶ機会を提供し、県民の里山里海湖保全の意識醸成につなげる。												
[事業内容]												
<p>(1) 福井ふるさと学びの森の運営(若狭エリア) 学びの森において、幅広い参加者層を対象とした他地域でも活用できるような実践的な学びの森活動を実施する。 場 所：若狭町気山(民有林) 実施内容：・一般県民を対象とした体験プログラムの実施(1回)・大学生が野外での安全面や幼児との接し方を学ぶ体験プログラムの実施(1回) ・小学校等への里山学習の機会を提供(3回)・里山林の保全作業を実施</p> <p>(2) 福井ふるさと学びの森・海湖ネットワーク事業 福井ふるさと学びの森・海湖登録団体の活動内容のレベルアップを図り、県内外での集客力を高めることで、森と海湖のつながりを学べる環境づくりを推進する。</p> <p>①先進的、挑戦的な活動への支援 学びの森登録団体または新規に学びの森への登録を目指す団体が、先進的、挑戦的な活動を実施するに当たり、その必要経費を支援する。 ○補助件数 5件(定額補助、上限200,000円/件) ○補助対象 ・新しい体験プログラムの開発に要する経費(活動意欲の継続・参加者の満足度向上)</p> <p>②県内外への情報発信：ア 県外向け広報 イ 県内向け広報</p> <p>③安全性の向上のための合同研修会兼情報交換会を開催：学びの森・海湖団体で合同開催(1回)</p>												
[受益者] 県民						[想定される受益者数]						
前事業の有無・実績	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 事業名 「福井ふるさと学びの森」事業、NW事業 (実績) (1) 県直営の学びの森3か所(若狭町、あわら市、奥越)を運営(奥越は自然保護センターと共催)し、一般県民を対象とした年間体験プログラムを実施 (2) 学びの森登録団体への支援					関連事業の有無・役割分担	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (役割分担)					
市町との連携状況						他県の状況						

福井ふるさと学びの森 がんばる里山里海湖応援プロジェクト

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	安全環境部	課名	自然環境課	課長名	大川 瑛子	
事業主体	県				事務区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業区分	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業開始年度 R1 年度 経過年数 3 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R4 年度	
事業実施方法	直営											
補助率	—											
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	国庫、その他財源の名称等						
予算額	3,850			(繰入) 3,842 (諸) 8		(繰入金) 環境保全基金、(諸収入) 参加者実費負担分						
[予算額の推移等] (単位：千円)												
区分	平成29年度	30年度	令和元年度	2年度	3年度	令和3年度予算額の増減理由						
当初予算額の推移		5,159	5,129	4,147	3,850	あわらエリアの直営を廃止 登録団体の支援を強化						
2月現計予算額の推移		5,159	5,129	3,352								
決算額の推移		4,912	4,799									
前年度までの 主な増減理由	<ul style="list-style-type: none"> ・ (R1) 先進的、挑戦的な活動を行う団体への補助支援を追加（県内広報誌への広告費を追加） ・ (R2) 資機材貸出に係る事業を別事業として計上（※30年度は前事業の額を記載） 											
[成果指標等の推移]												
区分	平成29年度	30年度	令和元年度	2年度	3年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠				
成果指標	森団体と海湖団体の連携 企画数	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	1回				
	実績	1	0	0								
活動指標	ネットワーク事業開催回 数	(1)	(2)	(1)	(1)	(1)	(1)	森、海湖合同で1回				
	実績	1	2	0								
[事業の評価]												
前年度の実績 (R2)				実績を踏まえた令和3年度の変更点				事業評価				
(R2) ・ 県直営の学びの森事業実施回数 3回（若狭2回、あわら1回） 感染症拡大防止のため、若狭の実施回数を減 ・ 学びの森・海湖ネットワーク大会 感染症拡大防止のため、団体を集めての研修を中止。 代わりに4団体の協力を得て、研修用動画を作成し、各団体に配布（予定）				直営事業のあわらエリアを廃止 若狭の学びの森は、新しい内容、チャレンジ的内容を盛り 込む				<input type="checkbox"/> 拡充	<input checked="" type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額	
								<input type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了	△ 297	
								<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他		

里山保全活動用資機材貸出事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	安全環境部	課名	自然環境課	課長名	大川 瑛子	
事業主体	県				事務 区 分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業 区 分	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業 開始 年度	R2 年度 経過年数 2 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R4 年度
事業実施方法	直営											
補助率	—											
福井県長期ビジョン における位置付け	分野 [4 安心を高める(地域力) 政策 [15 ふるさとの暮らしと風景の維持]]				関連する県の計画等	[福井県環境基本計画、里山里海湖研究所中期計画]						
[解決すべき問題・課題]												
<p>里山の利活用が減り、「里山の奥山化」が進行し、獣害発生の一因となっているため、少人数、高齢者でも取り扱いの可能な里山整備資機材の利用普及により、適正な里山管理の支援が必要である。</p>												
[事業目的]												
<p>人の手が入らなくなり荒廃が進む里山の保全・再生および資源利用の推進のため、県内の里山の保全・再生活動に取り組んでいる方を対象に、里山保全活動用資機材の貸出しを行っている。ニーズの高い資機材のうち、耐用年数を迎えた一部を更新し、里山保全活動者の利便性を向上させ、県内の里山の保全・再生を促進する。</p>												
[事業内容]												
<p>(1) 県内3地区で貸出業務を実施 <input type="radio"/> 貸出拠点 3ヶ所(福井地区、丹南地区、嶺南地区)で貸出 <input type="radio"/> 貸出資機材(現状) 福井地区 ウッドチップパー2台、薪割機2台、炭化炉4台 丹南地区 " 1台、 " 1台 嶺南地区 " 1台、 " 1台、炭化炉2台</p> <p>(2) 貸出資機材の更新 所有しているウッドチップパー4台のうち1台を更新</p>												
[受益者] 県民						[想定される受益者数] -						
前事業の有無・実績 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 事業名 森と海湖のつながり体感事業 (実績) 資機材貸出件数(H30) ウッドチップパー(4台) 47回 薪割り機(4台) 25回						関連事業の有無・役割分担 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (役割分担)						
市町との連携状況						他県の状況						

里山保全活動用資機材貸出事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	安全環境部	課名	自然環境課	課長名	大川 瑛子	
事業主体	県				事務 区分	■ 自治事務		■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業 開始 年度	R2 年度 経過年数 2 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R4 年度
事業実施方法	直営					□ 法定受託事務						
補助率	—											
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	国庫、その他財源の名称等						
予算額	2,888			(繰入) 2,888		環境保全基金						
[予算額の推移等] (単位：千円)												
区 分		平成29年度	30年度	令和元年度	2年度	3年度	令和3年度予算額の増減理由					
当初予算額の推移					1,366	2,888	貸出し資機材の一部を更新					
2月現計予算額の推移					1,366							
決算額の推移												
前年度までの 主な増減理由	・令和2年度は、丹南地区の貸出拠点を追加											
[成果指標等の推移]												
区 分		平成29年度	30年度	令和元年度	2年度	3年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠			
成果指標	貸出回数 (目標)		(60)	(60)	(60)	(60)	(80)	(100)	ウッドチップパー、薪割り機、炭化炉の貸出が毎月5回 (R2は2月末現在)			
	実績		73	64	69							
活動指標	貸出し拠点数 (目標)		(2)	(2)	(3)	(3)	(3)	(3)	嶺北、嶺南各1か所 令和2年度以降は嶺北2か所、嶺南1か所			
	実績		2	2	3							
[事業の評価]												
前年度の実績 (R2)				実績を踏まえた令和3年度の変更点				事業評価				
(R2) ・貸出拠点 嶺北2か所 (福井地区、丹南地区) 嶺南1か所 ※丹南地区を新たに追加				耐用年数を迎えた資機材の一部を更新				<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額	
								<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了		
								<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他		

里山文化体験講座

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	安全環境部	課名	自然環境課	課長名	大川 瑛子	
事業主体	県				事務 区 分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業 区 分	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業 開始 年度	H26 年度 経過年数 8 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R4 年度
事業実施方法	直営											
補助率	—											
福井県長期ビジョン における位置付け	分野 [4 安心を高める(地域力) 政策 [15 ふるさとの暮らしと風景の維持]]				関連する県の計画等	〔 福井県環境基本計画、里山里海湖研究所中期計画 〕						
[解決すべき問題・課題]												
里山里海湖の魅力や大切さを幅広い世代に伝えることが必要である。												
[事業目的]												
里山里海湖研究所の来所者に対し、地域のお年寄り（ふるさと研究員）や里山里海湖相談員を講師に、里山里海湖の伝統的な人の営みを題材とした気軽な体験メニューや周辺の自然環境を活かした体験メニューを提供し、里山里海湖の魅力を幅広い世代に伝える。												
[事業内容]												
<p>(1) 里山里海湖研究所自然観察棟において、来所者が気軽に体験できるメニューを提供</p> <p>○体験メニュー 松ぼっくりアート、どんぐりアートなどの工作 野鳥観察、研究内容の紹介 等</p> <p>○指導者 里山里海湖相談員</p> <p>(2) 時節に応じた自然体験企画を開催 自然観察棟周辺の自然環境を活かした植樹や生き物観察など、来所者が縄文ロマンパーク一帯で里山文化を体感できる企画を実施する。</p> <p>○開催日 年4回（四半期に1回） ○場 所 里山里海湖研究所自然観察棟および縄文ロマンパーク周辺</p>												
[受益者] 県民						[想定される受益者数]						
前事業の有無・実績	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (実績)					関連事業の有無・役割分担	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (役割分担)					
市町との連携状況						他県の状況						

里山文化体験講座

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	安全環境部	課名	自然環境課	課長名	大川 瑛子	
事業主体	県				事務区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業区分	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業開始年度	H26 年度 経過年数 8 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R4 年度
事業実施方法	直営											
補助率	—											
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	国庫、その他財源の名称等						
予算額	476			(繰入) 476		環境保全基金						
[予算額の推移等] (単位：千円)												
区分		平成29年度	30年度	令和元年度	2年度	3年度	令和3年度予算額の増減理由					
当初予算額の推移		861	1,379	987	476	476						
2月現計予算額の推移		861	809	987	476							
決算額の推移		636	650	724								
前年度までの 主な増減理由		(29→30) 年2回の特別企画を開催するため増額 (30→31) シルバー人材センター委託業務を削減 (R1→R2) 開催回数の減										
[成果指標等の推移]												
区分		平成29年度	30年度	令和元年度	2年度	3年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠			
成果指標	来所者数 (目標)	(15,000)	(15,000)	(15,000)	(15,000)	(15,000)	(15,000)	(15,000)	展示・体験メニューの充実を図り、来所者数の増加を目指す (R2はコロナによる閉鎖期間あり)			
	実績	12,441	20,044	30,946	11,000							
活動指標	時節に応じた企画イベント数 (目標)		(2)	(12)	(4)	(4)	(4)	(4)	四半期に1回			
	実績		6	11	4							
[事業の評価]												
前年度の実績 (R2)				実績を踏まえた令和3年度の変更点				事業評価				
(R2) 季節ごとに特別企画を開催 (年4回) ※春は、感染症拡大防止のため、秋に延期								<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額	
								<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了		
								<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他		

年縞博物館企画展開催事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	安全環境部	課名	自然環境課	課長名	大川 瑛子	
事業主体	県				事務 区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業 区分	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業 開始 年度	H31 年度 経過年数 3 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R4 年度
事業実施方法	直営											
補助率	—											
福井県長期ビジョン における位置付け	分野 [4 安心を高める(地域力)] 政策 [15 ふるさとの暮らしと風景の維持]				関連する県の計画等	[福井県環境基本計画]						
<p>[解決すべき問題・課題]</p> <p>「水月湖年縞」の学術的価値や潜在的な魅力は高いものの、常設展示だけでは来館の動機づけが不十分。魅力ある特別企画展を開催することにより、来館意欲を喚起するとともに、リピーターの確保を行う必要がある。</p>												
<p>[事業目的]</p> <p>水月湖年縞および平成30年9月にオープンした年縞博物館の認知度を高め、また、年縞研究の重要性について理解を深めてもらうため、特別企画展を実施し、年縞博物館への誘客を図る。</p>												
<p>[事業内容]</p> <p>概要：立命館大学、北場育子准教授らによって発見された古代マヤ文明期の年縞（サン・クラウディオ湖、メキシコ）を世界初公開し、近年の異常気象やマヤ文明の盛衰に迫る。グアテマラ、ペテシュバトゥン湖の年縞も初公開する。</p> <p>テーマ：特別企画展「世界初公開！マヤの年縞—サン・クラウディオ湖底に眠る古代文明の記憶」（仮）</p> <p>時期：令和3年8月～9月（予定）</p> <p>展示構成：①マヤの年縞ステンドグラスを世界初公開 ②年縞からわかる異常気象や自然改変、文明衰退について解説</p> <p>記念シンポジウム：企画展開期中に実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ○題目 「古代マヤ研究の最前線」 ○講師 猪俣健氏（アリゾナ大学教授）北場育子氏（立命館大学准教授）ら招聘 ○日時 令和3年8月中旬 ○場所 若狭町内 ○人数 150人 												
[受益者] 来館者						[想定される受益者数] 15,000人						
前事業の有無・実績	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 事業名 年縞博物館開館記念事業 (実績) 平成30年9月に年縞博物館が開館するに当たり、世界の年縞の研究・教育の拠点として、年縞の魅力を県内外に発信するため、特別企画展を開催					関連事業の有無・役割分担	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 事業名 調査研究および資料収集事業 (役割分担) 収集した資料を企画展等で公開					
市町との連携状況	若狭三方縄文博物館との合同特別企画展の実施					他県の状況						

年縞博物館企画展開催事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	安全環境部	課名	自然環境課	課長名	大川 瑛子		
事業主体	県				事務区分	■ 自治事務		事業区分	■ 実行予算		事業終了予定年度 (見直し年度)		
事業実施方法	直営					□ 法定受託事務			□ 補助金			事業開始年度	H31 年度 経過年数 3 年
補助率	—					□ その他							
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	国庫、その他財源の名称等							
予算額	3,983	1,991			1,992	地方創生交付金							
[予算額の推移等] (単位：千円)													
区分		平成29年度	30年度	令和元年度	2年度	3年度	令和3年度予算額の増減理由						
当初予算額の推移				4,793	3,855	3,983							
2月現計予算額の推移				4,793	1,655								
決算額の推移				4,767									
前年度までの主な増減理由		—											
[成果指標等の推移]													
区分		平成29年度	30年度	令和元年度	2年度	3年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠				
成果指標	企画展開催期間中の来館者数 (目標)			(8,000)	(10,000)	(10,000)	(10,000)	(10,000)					
	実績			15,311	16,472								
活動指標	特別企画展開催件数 (目標)			(1)	(1)	(1)	(1)	(1)					
	実績			1	1								
[事業の評価]													
前年度の実績 (R2)				実績を踏まえた令和3年度の変更点				事業評価					
縄文博物館との合同開催や連携した企画展開催記念イベント等により、成果指標、活動指標ともに達成した。				より魅力ある企画展を開催するとともに、連携協定を締結している立命館大学の最新の研究を紹介する。				<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額		
								<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了			
								<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他			

年縞博物館魅力向上事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	安全環境部	課名	自然環境課	課長名	大川 瑛子	
事業主体	県				事務 区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業 区分	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業 開始 年度	R1 年度 経過年数 3 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R4 年度
事業実施方法	直営											
補助率	—											
福井県長期ビジョン における位置付け	分野 [4 安心を高める(地域力)] 政策 [15 ふるさとの暮らしと風景の維持]				関連する県の計画等	[福井県環境基本計画]						
<p>[解決すべき問題・課題]</p> <p>平成30年9月に開館し、徐々に年縞や博物館の認知度が上がってきているが、いまだに認知度が低い。 このため、年縞研究を推進し年縞の学術的価値を高めるとともに、魅力あるコンテンツにより来館促進、リピーター確保を行う必要がある。</p>												
<p>[事業目的]</p> <p>年縞研究・教育・観光の拠点である年縞博物館において、研究を推進し研究成果を普及啓発することで、年縞博物館の魅力を高め、北陸新幹線福井・敦賀開業を見据えた来館者の増加を図る。</p>												
<p>[事業内容]</p> <p>(1) 年縞研究の推進 ○国際年縞研究会の開催 最新の研究成果や今後の研究の方向性等を検討するため、年縞研究を最前線で行っている海外研究者を招へいする研究会を、立命館大学とともに開催(年縞博物館での開催1回)</p> <p>(2) 年縞教育・普及の推進 ○サイエンスカフェ等の開催 水月湖年縞の研究に関連する各分野の専門家を招き、県民が年縞研究の見識を深める「サイエンスカフェ」等を実施(2回、各回20名程度)し、年縞の魅力を発信する人材を育成 ○琵琶湖博物館と連携した展示・講座の実施 令和2年度開催の福井県・滋賀県知事懇談会の合意事項に基づき、①両博物館で互いの所蔵品を展示・紹介 ②学芸員を相互に派遣して講座等を開催 ○誘客の強化 開館2周年を待たず来館者10万人を達成した年縞博物館の魅力を観光関連企業、教育関係機関等に発信し、さらなる誘客促進を図る</p>												
[受益者] 来館者						[想定される受益者数] 60,000人						
前事業の有無・実績	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (実績)					関連事業の有無・役割分担	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 事業名 年縞博物館企画展開催事業 (役割分担) 立命館大学、北場育子准教授らによって発見された古代マヤ文明期の年縞(サン・クラウディオ湖、メキシコ)を世界初公開し、近年の異常気象やマヤ文明の盛衰に迫る。グアテマラ、ペテシュバトゥン湖の年縞も初公開する。					
市町との連携状況						他県の状況						

年縞博物館魅力向上事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	安全環境部	課名	自然環境課	課長名	大川 瑛子		
事業主体	県				事務 区分	■ 自治事務		■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業 区分	事業 開始 年度	R1 年度 経過年数 3 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R4 年度
事業実施方法	直営					□ 法定受託事務							
補助率	—												
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	国庫、その他財源の名称等							
予算額	1,406	703			703	地方創生交付金							
[予算額の推移等]												(単位：千円)	
区 分		平成29年度	30年度	令和元年度	2年度	3年度	令和3年度予算額の増減理由						
当初予算額の推移				6,288	1,267	1,406							
2月現計予算額の推移				6,288	1,267								
決算額の推移				5,734									
前年度までの 主な増減理由	令和元年度に年縞博物館ガイドブック（図録）および周辺施設と共同でPR動画を制作したため、令和2年度以降の事業費が減少した												
[成果指標等の推移]													
区 分		平成29年度	30年度	令和元年度	2年度	3年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠				
成果指標	来館者数 (目標)		(30,000)	(60,000)	(60,000)	(60,000)	(60,000)	(60,000)	年縞博物館の来館者数				
	実績		30,818	55,232									
活動指標	研究会、サイエンスカフェの開催 (目標)			(7)	(6)	(4)	(4)	(4)	国際年縞研究会（1回）、サイエンスカフェ（2回）、琵琶湖博物館連携事業（1回）				
	実績			6	5								
[事業の評価]													
前年度の実績（R2）				実績を踏まえた令和3年度の変更点				事業評価					
新型コロナウイルス感染拡大の影響により、国際年縞研究会が開催できないなど目標を達成できなかった。				福井県・滋賀県知事懇談会による合意事項に基づき、琵琶湖博物館との連携事業を新たに実施する。				<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額		
								<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了			
								<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他			

海浜自然センター特別企画事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	安全環境部	課名	自然環境課	課長名	大川 瑛子	
事業主体	県				事務 区 分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業 区 分	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業 開始 年度	H27 年度 経過年数 7 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R4 年度
事業実施方法	直営											
補助率	—											
福井県長期ビジョン における位置付け	分野 [4 安心を高める(地域力)] 政策 [15 ふるさとの暮らしと風景の維持]				関連する県の計画等	[福井県環境基本計画]						
[解決すべき問題・課題]												
<p>夏季においては特に、関西、中京方面からの来館者が増加傾向である。これらの利用者が年間を通して利用してもらえるような特別企画を開催し、福井の海湖に親しみ、環境保全や海産資源消費拡大をめざす。</p>												
[事業目的]												
<p>センターの活用や来館を促進するため、主催事業や出張講座、個人受入講座の内容を紹介するとともに、福井の海湖(うみ)に親しみ、環境保全意識の高揚や海産資源の消費拡大に向けた特別企画を開催する。</p>												
[事業内容]												
<p>①学ぼう！福井の海湖(うみ) イベント 7月17日(土)・7月18日(日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来館者に海岸清掃やゴミの回収・分別に協力してもらい、海湖をきれいにすることの大切さを感じてもらう。 ・回収した漂着物を使い、アート作品にリサイクルして環境保全意識を高める活動を行う。 ・磯観察や魚釣りをし、多様な福井の海の生きものを知ってもらう。 等 <p>②考えよう！福井の海湖(うみ) イベント 10月9日(土)・10月10日(日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乗船体験を行い、若狭湾の自然・景観に素晴らしさや養殖場を見学し、水産資源保護について学ぶ。 ・関係各機関に依頼し、海湖の資源保護や活用に関する講演会やクイズ大会を行う。 ・福井の海湖(うみ)に関連する資源を活用したクラフト講座を行う。 等 												
[受益者] 県民						[想定される受益者数] 10,000人						
前事業の有無・実績	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (実績)					関連事業の有無・役割分担	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 事業名 自然体験講座開催事業 (役割分担) 当センターの自然体験講座開催事業について紹介したり、参加の予約を受け付けたりするなど、講座参加率向上を図る。					
市町との連携状況	<ul style="list-style-type: none"> ・県立大学、水産試験場、各地区教育委員会・小学校、各地区観光協会等との連携 ・若狭町ツーデーマーチ、若狭町ハート&アートフェスタへの参加協力 ・海岸清掃時のゴミ処理については、ボランティア活動として処理費用を免除(若狭町) 					他県の状況	石川県のとじま水族館(宿泊体験等の企画イベントを実施)					

海浜自然センター特別企画事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	安全環境部	課名	自然環境課	課長名	大川 瑛子					
事業主体	県				事務 区分	■ 自治事務		事業 区分	■ 実行予算		事業 開始 年度	H27 年度 経過年数 7 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R4 年度		
事業実施方法	直営					□ 法定受託事務			□ 補助金						□ その他	
補助率	—															
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	国庫、その他財源の名称等										
予算額	2,172			(繰入) 2,172		自然保護基金										
[予算額の推移等]												(単位：千円)				
区 分		平成29年度	30年度	令和元年度	2年度	3年度	令和3年度予算額の増減理由									
当初予算額の推移		2,566	2,626	2,488	2,437	2,172										
2月現計予算額の推移		2,566	2,626	2,488	1,000											
決算額の推移		2,566	2,619	2,488												
前年度までの 主な増減理由																
[成果指標等の推移]																
区 分		平成29年度	30年度	令和元年度	2年度	3年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠							
成果指標	来館者数 (目標)	(120,000)	(120,000)	(120,000)	(110,000)	(110,000)	(110,000)	(110,000)	海の活動に最適な時期に年2回イベントを開催し、環境保全の啓発をする。また、イベント開催に伴う来館者の増加を狙い、更なる環境保全意識の高揚を図る。							
	実績	118,105	132,779	129,064												
活動指標	イベント来館者数 (目標)	(10,000)	(10,000)	(10,000)	(5,000)	(5,000)	(5,000)	(5,000)	学ぼう！福井の海湖（うみ）（5,000人）、考えよう！福井の海湖（うみ）（5,000人）※過去の集客をもとに算出							
	実績	11,679	15,430	13,444												
[事業の評価]																
前年度の実績 (R2)				実績を踏まえた令和3年度の変更点				事業評価								
・10月10,11日「若狭の海湖（うみ）を楽しもう！」開催 （参加人数1,856人） ・3月20,21日「学ぼう！若狭の海湖（うみ）」開催								<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額					
								<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了						
								<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他						